

# アグリ会計情報システム

---

複式簿記記帳の流れ

# 複式簿記記帳の流れ(1)

農業資産の評価(現金、預金、負債、有価証券の確認)  
棚卸資産の評価(農産物、農用資材等の棚卸)

勘定科目の設定(資産、負債、資本、収益、費用に係わる科目を設定)

(開始貸借対照表)

繰越残高試算表の作成(償却資産、棚卸資産等から作成)

日常の記帳(現金出納帳兼仕訳帳の記入、作業日誌の記入)

## 複式簿記記帳の流れ(2)

科目別集計表への転記(仕訳帳から科目別集計表に転記)



決算のための整理記入(家計分の振替、棚卸資産の評価、減価償却費の計算)



試算表の作成(科目別集計表から試算表に転記)



決算(精算表の作成)(損益計算書及び貸借対照表の作成)

# 農業資産の評価(現金、預金、負債、有価証券の確認)

## 現金の金額

- ・ 現金の年度始(期首)の額とします。

## 預金

- ・ 各金融機関毎に普通預金、定期預金の年度始(期首)の額を調べます。

## 負債

- ・ 各金融機関毎に借金の年度始(期首)の残高を調べます。
- ・ また、農協などから資材等を購入し、まだ支払っていない額を調べます。

## 有価証券の確認

- ・ 農協への出資金等の有価証券の額を調べます。

# 棚卸資産の評価(農産物、農用資材等の棚卸)

## 建物、農機具の価額

- 建物、農機具個々に未償却残高を算出し、年度始(期首)の価額を決定します。そして、建物、農機具の合計額を算出します。

## 動植物の価額

- 動植物は一人前になったものと、それ以前のものに区分されます。
- (ア)一人前になったもの  
建物、農機具と同じように未償却残高を算出し、年度始(期首)の価額を決定します。ただ、取得価は建物、農機具の場合は購入価額(建設価額)等ですが、動植物の場合は、一人前になるまでの経費の額を積み立てる形をとります。当然、積み立てられた分の額は、その年の経費とはなりません。
- (イ)一人前以前のもの  
一人前になるまでの経費の額を積み立てる形をとり、その額が価額になります。ただし、積み立てられた分の額は、その年の経費とはなりません。

## 土地(農地)の価額

- 農業は不動産と違い土地を売買することが頻繁には行われません。最近購入した土地は金額が明確ですが、祖先からの土地は価額が判りませんので、以下の評価方法で金額を表します。土地の価額を算出するには、次の方法があります。  
(ア)購入した土地:購入代金+購入手数料+不動産取得税  
(イ)開墾した土地:開墾前の評価額+開墾に用いた費用  
(ウ)先祖からの土地:類地の売買価額に基づいた控え目な時価評価額か「固定資産税評価標準となった評価額」(税務課で定めている。)のいずれかで評価します。なお、土地は減価償却しませんので、年度始価額も年度末価額も同じです。

## 農産物、農用資材等の価額

- 農産物や農用資材等が会計期間をまたがる場合は、年度末に棚卸しを行います。最初に複式簿記を記帳する場合もその年度始めでの農産物や農用資材等の在庫状況を調べ、評価や購入価額により価額を決定します。
- ア)農産物  
農産物毎に在庫の数量を調べ、その農産物がどの程度で販売できるか評価し、価額を決定し、合計額を出します。
- イ)農用資材等の価額  
肥料や農薬、諸材料毎に在庫の数量と購入価額を調べ、金額を算出します。

# 勘定科目の設定(1)

## (資産、負債、資本、収益、費用に係わる科目を設定)

### 勘定科目の決め方のコツ

- ・簿記はすべて金額に表して計算しますが、簿記では計算上の単位(項目)を「勘定」といいます。具体的には「現金」「預金」「土地」などというような名称を使います。この名称を「勘定科目」といい、計算は勘定科目毎に行われます。勘定科目は多いほどいろいろ細かいところまで判ります。例えば、「預金」と勘定科目を設定すれば、預金全体を把握することはできますが、普通預金や定期預金はどうなのかとなると、いちいち調べなければなりません。この場合は、「普通預金」「定期預金」と設定したほうが良いでしょう。
- ・さらに細かくして、「〇〇銀行普通預金」「△△農協普通預金」「〇〇銀行定期預金」「△△農協定期預金」とした場合はどうでしょうか。たしかに、金融機関ごとに普通預金、定期預金を把握することができますが、預金だけでもかなりの数の勘定科目となり、事務が煩雑となる可能性があります。良い悪いではなく、事務能力の問題となります。複式簿記を初めて記帳する方は、勘定科目を全体で40から50程度にしたほうが良いと思われます。

### 具体的な勘定科目の使い方

- ・勘定科目は、必ずこれを使うといったことではなく、それぞれの経営部門の特徴や農業者が経営分析・診断を行う際に、この内容は詳しく知りたいとしたときに必要となる勘定科目を設定すればよいことになります。  
一応、次の勘定科目を参考までに記述しておきます。なお、基本科目はベースとして、応用科目は基本科目をより細かく設定するもので、各自が判断して使うことになります。

# 勘定科目一覧表

## 貸借対照表に関する勘定科目(資産)流動資産

基本科目	応用科目	内容
現金		現金及び手形、郵便振替
預金	当座預金、普通預金、定期預金、郵便貯金	農協、銀行、郵便局などの預貯金
売掛金	未収金	農産物を販売した時の未収
農産物	米、果物、野菜	棚卸資産で、農産物の未販売高
農用資材	肥料、農薬等	棚卸資産で、購入した農用資材の未使用高
	繰越未収穫農産物	前払費用、未収穫農産物の費用を計上
雑資産	仮払金、貸付金、受取手形等	

## 勘定科目一覧表

### 貸借対照表に関する勘定科目(資産)固定資産

基本科目	応用科目	内容
農機具	車輛運搬具、備品	1年以上使用し、1個(組)20万円以上
建物	ハウス、構築物、建物仮	1年以上使用し、1個(組)20万円以上 建物仮は完成までの支出を名目上使用
動植物	成園	取得価額から減価償却累計額を差し引いた額取得価額は購入価額または育成累計額
育成累計額	未成園	育成期間の費用を累積する
土地		購入したものは購入価額。先祖代々の土地は固定資産税評価額か近くの売買事例を参考
投資	出資金、有価証券、長期貸付金	上記以外の資産で現金化するのに1年以上こえるもの

# 勘定科目一覧表

## 貸借対照表に関する勘定科目(負債)

基本科目	応用科目	内容
買掛金	未払金	資材などの購入に際しての未払金
借入金	短期借入金、長期借入金	1年以内に返済する借入金を短期、1年以上を長期
雑負債	借受金、預り金等	その他の負債。借受金は概算金、予約金を受け取った時に使用。預り金は源泉徴収税などの処理に使用

# 勘定科目一覧表

## 貸借対照表に関する勘定科目(引当金)

基本科目	応用科目	内容
引当金	減価償却累計額、貸倒引当金、価格変動準備金	減価償却を間接法で行った時に使用。貸倒引当金、価格変動準備金は積み立てたときに使用

## 勘定科目一覧表 貸借対照表に関する勘定科目(資本)

基本科目	応用科目	内容
事業主貸	事業主勘定の事業主とは、農業経営主のことをさしているのではなく、農業経営主以外の事業の主として設定されています。	農業から事業主への貸し
事業主借	事業主勘定の事業主とは、農業経営主のことをさしているのではなく、農業経営主以外の事業の主として設定されています。	農業の事業主からの借り
資本金		自己資本の額
純利益		当期の利益で、決算で初めて生ずる

# 勘定科目一覧表

## 損益計算書に関する勘定科目(収益) 事業収入

基本科目	応用科目	内容
売上高	米、果物、野菜売上高等	農産物の売上額、自家消費額、現物支給等
雑収入	受取共済金 奨励金 利用高配分 受取料金 雑収入	共済金の受取額 出荷奨励金 農協の利用高配当 作業受託料金 副産物販売額

# 勘定科目一覧表

## 損益計算書に関する勘定科目(収益) 事業外収入

基本科目	応用科目	内容
受取利息		預貯金の利息
受取賃金		日稼ぎ等の賃金収入
雑役		事業(農業)以外の収入

## 勘定科目一覧表 損益計算書に関する勘定科目(特別収益)

基本科目	応用科目	内容
補助金		補助金を受けた額
固定資産処分益		機械や建物などを処分したときに生じた利益(譲渡所得となる)
転作奨励金		転作による奨励金(一時所得となる)

# 勘定科目一覧表

## 損益計算書に関する勘定科目(費用)生産原価

基本科目	応用科目	内容
種苗費		種子、苗、苗木の購入費
肥料費		化学肥料、土壌改良剤、堆肥の購入費
農薬費		農薬、除草剤、成長調整剤等の購入費
諸材料費		上記以外の資材費。ビニール、支柱等の購入費
小農具費		価額が20万円以下で耐用年数が1年未満
光熱水費		農業での水道、ガス、電気料、燃料
雇用費		雇用労賃及びおやつ代等
賃料料金		耕起等の作業の委託料、共同組織の負担金等
借地料		借地の料金、現物支払いの場合は金額評価
支払利息		農業上の借入金の利息や債務保証料等
共済掛金		水稲、果樹、野菜等の共済金 価格安定制度への掛金

# 勘定科目一覧表

## 損益計算書に関する勘定科目(費用)生産原価

基本科目	応用科目	内容
土地改良費		水利費、土地改良費
損害保険料		建物や車などの損害保険料
租税公課		農業上での固定資産税、不動産取得税、自動車税、印紙税等
農用被服費		農作業に必要な衣類の購入費。カッパ、長靴、手袋等
修繕費		建物や農機具の修繕費用
農機具償却費		農機具、車輛運搬具の減価償却費
建物償却費		建物の減価償却費
雑費		その他生産に要した費用

## 勘定科目一覧表

### 損益計算書に関する勘定科目(費用)販売費

基本科目	応用科目	内容
販売経費	出荷手数料 出荷運賃 出荷資材費	販売に要した箱、紐などの購入費、市場や農協の手数料 運送費 共同選果・出荷に要した費用

## 勘定科目一覧表

### 損益計算書に関する勘定科目(費用)一般管理費

基本科目	応用科目	内容
給与	専従者給与 常雇給与	青色申告専従者給与、賞与 常用雇用者への給与、賞与
事務通信費		切手代、電話料金、交通費、新聞・雑誌購読料、図 書費、文房具等
研修費		講習会負担金等
交際費		農産業に係る慶弔費、接待のための飲食代、贈 答品等
その他管理費		その他一般管理に要する費用

# 勘定科目一覧表

## 損益計算書に関する勘定科目(費用)事業外費用

基本科目	応用科目	内容
雑費		事業外のその他の費用

## 勘定科目一覧表

### 損益計算書に関する勘定科目(特別損失)

基本科目	応用科目	内容
圧縮損	機械圧縮損 建物圧縮損	補助金を受け取得した資産の減額するために対応する科目
固定資産処分損		機械や建物など処分したときに生じた損失(譲渡所得となる)

# 勘定科目一覧表

## ちょっと難しい勘定科目

基本科目	応用科目	内容
補助金を受けて機械を購入したり建物を建築した場合	補助金を受け取ったときの扱い	農業では補助金を受けて農業機械やパイプハウス等の建物を導入する場合があります。補助金は補助を受ける農業者側の預金に入金されることとなります。勘定科目は「補助金」を使いますが、この勘定科目は「特別収益」として扱われ、農産物などの「売上高」の収益勘定とは区分されます。なぜかという、収益勘定で扱うと課税対象となるからです。補助金は元来税金が使われるものですから、税金に再度税金を賦課するということはないからです。
補助金を受けて機械を購入したり建物を建築した場合	その補助金で農業機械を購入したり、建物を建築したときの扱い(5割の補助で建物を建てたとして)	建物を建てると、建物を建てるに要した金額の分「建物」という資産が増えることとなります。しかし、この建物の半分は農業者が負担し、残りの半分は補助金で建てられますから、建物を建てるに要した全額を減価償却することはできません。従って、補助金を受けた分の建物の価額を減少させる一方で「建物圧縮損」という勘定科目を設定します。この勘定科目は「特別損失」として扱われます。
災害などを受けたことにより、前に借りていた資金の返済が猶予された場合		冷害などにより、前に借りていた農地取得資金のその年の元金と利息の返済が何カ月か後に支払うよう猶予され、翌年に支払うことがあります。このままだと、利息の分は費用(勘定科目は支払利息)ですから、冷害を受けた年の利息分の費用はゼロで、翌年は2年分の利息分の費用となってしまいます。従って、冷害年の利息分を計上するために支払利息(費用)を設定し、一方では実際支払っていませんので「未払利息」(負債)として処理することとなります。

# 開始貸借対照表の作成

## 繰越残高試算表の作成(償却資産、棚卸資産等から作成)

### 貸借対照表とは

- 貸借対照表は前にも記述しましたが、ある一定時点の財産状態をあらわした表で、資産、負債、資本で構成されます。

### 貸借対象の作成

- 既に資産の評価、負債の調査、勘定科目の設定は終わったものとして、具体的に貸借対照表の作成を行ってみましょう。  
貸借対照表で実際には資産、負債、資本として使うのではなく、設定した勘定科目を使っていきます。

# 日常の記帳

## (現金出納帳兼仕訳帳の記入、作業日誌の記入)

### 取引とは何か

- ・ 農業経営を運営する上で、稲などを栽培または乳牛などを飼養し、そして生産物を販売します。一方で、肥料や農薬、機械を購入したり、預金を引き出したりするなどいろいろな行動を行います。  
簿記を記帳する上での取引とは、経営を運営するいろいろな行動により資本、資産、負債、収益、費用に変化をもたらす事गरらをいいます。例えば、1万円の現金を預金した場合、1万円という金額は変わっていませんが、現金から預金へとお金の姿(あり方)が変化しているので取引きとなります。また、天災で、建物がこわれた場合等は一般的には取引きとはいいませんが簿記では取引きといいます。反対に、建物を借りる契約を結ぶことは、普通は取引きといいますが、簿記では資本、資産、負債、収益、費用に増減がないので取引きとはなりません。

### 取引は2つの面から

- ・ 例えば、トラクタを現金で購入した場合には、トラクタが入り、その分の現金が出て行く。あるいは借金を現金で返済した場合、借金を返したので少なくなり(原因)その分現金が少なくなった(結果)というように必ず“出と入”“原因と結果”という2つの側面があります。

# 日常の記帳

## (現金出納帳兼仕訳帳の記入、作業日誌の記入)

### 仕訳の仕組み

#### ・仕訳とは何か

取引きを2つの側面をとらえて、その取引きに関係ある勘定科目名を定めて取引きの内容を2つに分解し、その金額を記載します。これを仕訳と言っています。仕訳は簿記記帳の出発点で、複式簿記の最も重要な基礎であります。

#### ・仕訳のしくみ

今、トラクターを現金 2,500,000円で購入した場合は、勘定科目をトラクターは農機具(資産)、現金(資産)とした時、トラクター(農機具)が入り、その分現金を支払いますので現金は少なくなります。これを仕訳すると(借方=左側)農機具2,500,000円、(貸方=右側)現金 2,500,000円ということになります。ここで、「借方(かりかた)」、「貸方(かしかた)」という用語が出てきますが、昔からこの言葉を使っているもので特別の意味はありません。借方は左側、貸方は右側を示しているだけです。取引きの2つの側面を同じに記録するために、左右に分けて記帳するのが複式簿記の仕組みで、借方と貸方という用語があります。複式簿記では、貸借対照表と損益計算書を同時に作成していくこととなりますが、貸借対照表では資産=負債+資本の貸借対照表等式が、損益計算書では費用+純収益=収益の損益計算書等式を基本として作成されます。この2つの等式の=をはさんで右側と左側とでまとめると資産+費用+純収益=負債+資本+収益となります。

# 日常の記帳

## (現金出納帳兼仕訳帳の記入、作業日誌の記入)

### 取引の10要素

- 取引きの要素は資産、負債、資本、費用、収益それぞれが増と減があるので10の要素があり、記帳される位置(左か右か)が決まっています。この左の要素と右の要素が結合して、一つの取引きが成り立っています。なお、取引き要素の左側同士や右側同士が結合することは決してありません。つまり、一つの取引きで、現金が増えて肥料代(費用)も増加することはありえません。また、「費用の発生」と「費用の減少」、「収益の減少」と「収益の発生」の取引はありえません。さらには、左側の要素一つと右側の要素一つが結びつくだけでなく、例えば、左側の要素二つと右側の要素一つが結びつくこともあります。

### 貸借平均の原理

- 簿記はすべて金額で表し、取引きを左側と右側の要素の結合関係でとらえることとなりますが、この右側と左側の金額の合計は必ず同じ金額となり、これを貸借平均の原理といいます。

# 日常の記帳

## (現金出納帳兼仕訳帳の記入、作業日誌の記入)

経営内から家計費に当てるお金を出したり、逆に経営外から経営内にお金が入ったとき

- ・複式簿記を記帳するに当たり、農業経営に係る現金や預金などの資産と買掛金や借入金などの負債の範囲を決め記帳することになります。要するに、農業経営の現金はこれ、家計の現金はこれといったように農業経営の財布と家計の財布は区分します。しかし、現実には農業経営の財布から家計費の財布にお金を出したり、その逆の場合が出てきます。経営内にある現金などが増減することは資本が増減することにつながります。これは、資本等式の資産－負債＝資本を考えると、今現金という資産が減少し、負債に変化がないとすれば、その分だけ資本が減少します。逆に、現金が増加すると、その分資本も増加します。

農業経営から家計など経営外にお金を出した場合

- ・例えば、現金20,000円を家計費として支出した場合の仕訳は次のようになります。(左側) 事業主貸 20,000 (右側) 現金 20,000まず、わかりやすい方から判断します。農業経営で持っている現金を家計の方に出したわけですから、現金という資産は減少し、資産が減少したら右側に記入されます。次に、左側は何かを判断します。現金が減るということは、資本が減ることになり、資本金等と同じグループの「事業主貸」という資本の勘定科目が設定され、資本が減ると左側に記入されます。

家計費の財布から、農業経営の財布に現金が入った場合

- ・今、家計の財布から現金5,000円が入った場合の仕訳は次のようになります。(左側) 現金 5,000 (右側) 事業主借 5,000まず、現金という資産が増加し、左側に記入されます。次に、現金という資産が増えることは、資本が増えることとなり、「事業主借」という資本の勘定科目が設定され、資本が増えると右側に記入されます。

# 日常の記帳

## (現金出納帳兼仕訳帳の記入、作業日誌の記入)

農産物を販売し掛売としていたが、相手から値引きを要求され応じた場合

・例えば、E商店にながいもを50,000円分販売し掛売としていたが、品質が悪く20%の値引きを要求され応じたときの仕訳は次のように行います。これを考えるとき、ながいもを販売した時点から考えます。その仕訳は次のようになります。(左側) 売掛金 50,000 (右側) ながいも売上高 50,000次に、20%の値引きを要求され、応じた時の仕訳は次のようになります。(左側) ながいも売上高 10,000 (右側) 売掛金 10,000これは、50,000円のながいも売上高と売掛金が値引きにより10,000円それぞれ減少することになり、仕訳で減少させるには販売した時点の仕訳の反対に勘定科目を設定すればよいこととなります。

肥料を掛買していたが、購入先へ値引きを要求したら応じた場合

・例えば、F商店から肥料を150,000円分買い、掛買としていたが、20%の値引きを要求したら、相手が応じたときの仕訳は次のように行います。これを考えるとき、肥料を購入した時点から考えます。その仕訳は次のようになります。(左側) 肥料費 150,000 (右側) 買掛金 150,000次に、相手が20%の値引きに応じた時の仕訳は次のようになります。(左側) 買掛金 30,000 (右側) 肥料費 30,000これは、150,000円の肥料費と買掛金が値引きにより30,000円それぞれ減少することになり、仕訳で減少させるには購入した時点の仕訳の反対に勘定科目を設定すればよいこととなります。

農業資材の棚卸しを行う場合

・肥料、農薬、資材などが次年に繰り越されるものがある場合には、次のように仕訳を行います。例えば、年末に倉庫を調べたら肥料が100袋(金額で200,000円)在庫となっていた。(左側) 肥料 200,000 (右側) 肥料費 200,000まず、肥料を買った際に肥料費としていることを思い出してください。そして、買ったけれども使わなかった肥料が100袋あったわけですから、全額肥料費で計上すると、その年の費用が多くなってしまいます。それで、使わなかった肥料100袋分の肥料費200,000円を減らすため、肥料費を右側に設定し、その肥料費の分を肥料という資産に振替えし、振替することにより資産が増え、左側に設定します。

## 開始貸借対照表の作成

### 繰越残高試算表の作成(償却資産、棚卸資産等から作成)

補助事業を活用し  
建物を建てた場  
合で、補助金が普  
通預金に振り込ま  
れた時

2,000,000円のサイロ  
を50%の補助事業で  
建てた場合

- ・ 左側) 普通預金 1,000,000 (右側) 補助金 1,000,000 まず、簡単な方から仕分けすると、普通預金という資産が増えていますから、資産が増えると左側に記入されます。次に、受け取った補助金は、そのまま勘定科目「補助金」として使いますが、特別損益として計上され、通常の売上高などの収益とは区分され、合計はされません。なぜかという、通常の売上高などの収益は費用などが差し引かれ課税対象となり、税金である補助金がこの収益に合計されると、税金に再度税金がかかるからです。

補助事業を活用し  
建物を建てた場  
合で、サイロを建  
設した時

- ・ (左側) 建物 2,000,000 (右側) 普通預金 2,000,000 建物圧縮損 1,000,000 建物 1,000,000 まず、簡単な方から仕分けすると、普通預金という資産が減っていますから、資産が減ると右側に記入されます。逆に、建物という資産が増えますので、資産が増えると左側に記入されます。このままだと、建物は2,000,000円で減価償却費が計算され、補助金分も含まれ費用が多くなってしまいます。従って、建物の価額から補助金分を差し引く必要があり、左側に「建物圧縮損」という特別損益の勘定科目を設定し、その分建物という資産を減らすために右側に設定します。

## 開始貸借対照表の作成

### 繰越残高試算表の作成(償却資産、棚卸資産等から作成)

#### 減価償却費の直接法の仕訳

- 減価償却費の計算は減価償却資産1個ずつ行いますが、建物や農機具のように、ひとまとめに減価償却費として費用計上します。また、直接法は減価償却資産を減価償却費の計上により、資産を直接減ずる方法です。例えば、トラクタ3,000,000円を1月に現金で購入した。その時の仕訳は次のようになります。(現実には、農機具全体となります。)(左側)農機具 3,000,000 (右側)現金 3,000,000これを、年末(決算)の時に減価償却費を計算し、計上しますと次のように仕訳されます。(左側)減価償却費 337,500 (右側)農機具 337,500減価償却費は費用で、費用が発生すると左側に記入されます。一方、減価償却費として計上された分だけ、農機具という資産が減少しますので、資産が減少すると右側に記入されます。